足は宙ブラリン 低目に改造して下さい

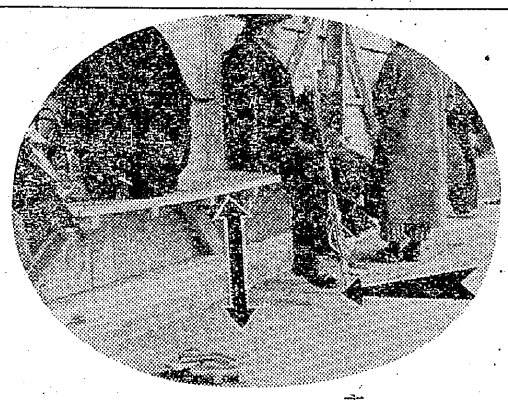
通勤電車西原駅ホームの待合所は最近あたらしい腰かけができてきれいになつたと喜ばれている。ところがこの腰かけ、どんな意味で設計されたのか地上からの腰が高くて、よつぽど背が高くて足のながい人でないと深々と腰をかけられない仕組みとなつている。普通の人だと深々とかけたら地上から足先が五寸ほど浮いて足をぶらぶらさせなければならない。このため大ていの人が、お尻の先をちよこんと板にのせるていどで電車を待つている。

子供、婦人、老人となるとなかなか大へんである。子供はだつこしてもらわないと上れないし、背の低いおばあさん、おじいさんらは下駄を脱いで上りこみ、ちよこんとしている。主婦や若い娘さんたちが足をぶらぶらさせて腰かけているところなどは、あまり感心した恰好ではなく気の毒なくらいである。

せつかくこんなによい待合所をつくつてあるのだから、もう少し低くしてもらつたらどんなにか気持よく電車を待つことができるだろうと、ここの駅を利用する人たちは希望している。

Aさん　部厚い頑丈な板で腰かけがつくられみんな喜んでいますもつとゆつたり腰をかけられるように低くしてもらえたらといつもこころえるたびに思います高いため子供が靴のまま上らないので汚れないのはよいですが私のように背が低いのには一寸こまります。

主婦　女が足をぶらぶらさせて腰かけているのは女の身だしなみとしても、また他からみられてもきれいなものではなく、何だかふしだらな恰好になるようで私はあんまり腰を下したことはありません。折角つくつてもらつたのだから、わがままいうわけではありませんが、もう少し低目に改造してもらいたいと思います。



などの声がきかれているように、ここの待合所を利用する人たちはできるなら何とかしてもらいたいとこの腰かけの改造をのぞんでいるようである。

気候も春めいてきた、利用者も多くなることだろう。みんなが気持よく電車を待つことができるようにと早くなおしてもらいたい。

囲碁教室ひらく

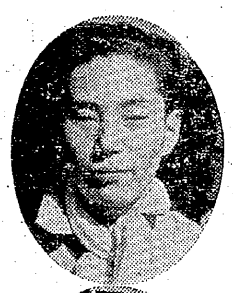
解説者に橋口、境の両氏

さいきん囲碁愛好者が自立つて増えてきた。職場や地域分会でもよく相手を探して夢中で打つている人をみかけるようになつた。ところが中には一通りのスジを習つただけで定石などに一向おかまいなくちよ突的に勝負の回数だけを重ねている人も大分あるようだ。囲碁も初歩からコツコツと研究して待ければ、さらにまた妙味も増すし、一段と面白く楽しく碁を打つことができるようになる。

こういうとき、三川支部の橋口初義、境敬一の両氏（ともに四段格のうち手）がとくに常識的なスジを専門に、対象をまだ習いはじめたばかりの十級前後の人たちにおいて来週から本紙に囲碁の解説、打ち方を掲載されることになりました。

両氏の囲碁は支部だけではなく大牟田、荒尾両市でもその実力は高く評価されておりますので、来週からの〝囲碁教室〟にご期待下さい。

橋口、境氏談　囲碁をやる人が非常に増えたようですので、習いはじめの人たちに少しでもためになるならと思つて、非才をかえりみずに解説することになりました。こんど一緒に皆さんと勉強して行きたいと思つています

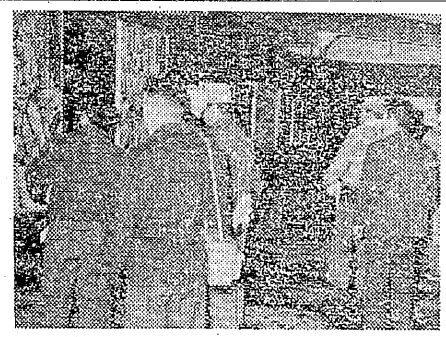


写真（上）橋口初義氏（下）境敬一氏

ヤマの美術展

みんなに見れる絵へ

三川美術展は去る二月十一日から十三日まで三川鉱講堂で行われた出品作品二十一点。



昨年、一昨年とくらべて出品作品は質、量ともに進歩をたどつており、同支部の美術サークルの着実な歩みが一年々々この美術展に反映してきている。

三鉱労組の中でも三川支部の美術サークルのように結成以来毎年美術展を開催しているのは珍しい存在であり、同サークルでは「とかく美術などというと大衆とかけはなれた存在になつてしまい浮いてくるが、わたしたちは数少ない展示会ではあるがこれを通じてみんなが絵に親しみ接触する機会をなるだけ多くもち、生活の中にとけこませたい」といつている。

紅葉ガ丘が優勝

宮浦のソフト・ボール大会

宮浦支部では去る十七日（日）午前九時から地域分会対抗ソフトボール大会を挙行した。

この大会は支部恒例の行事であり例年盛大に行われているが、今回のは昨年十一月三日に組合結成十周年記念に併行して当日行われることになつていたのだが、雨のために延期になり、今春に延期されていたものである。大会の目的は各地域分会の親睦と相互分会の連繋にあるのだが、現在支部の地域分会数は三十七、全分会がチーム編成して出場することになつていたが、四チームが欠場した。

小さな分会ではチームの編成もなかなか容易でなく、ルールも知らない人も含めて構成する分会もある有様であつた。

三十三チームの参加で球場もABCDの四パートにわけて行われたAパート笹原小学校、Bに天道小学校、Cは米生中学校、Dパートは宮山グラウンドがそれぞれあてられ、各チームは分会の名誉を担つて奮戦した。

結局各パートで勝残つたチームはA紅葉ガ丘、B平原、C柳川、Dハヤ馬南分会の各チームで大多数の意見にしたがうが、三四、七%、自分の意見をのべるが三二、七%、成行きにまかせるが三、一%ある。

組合が取り組んでいる問題はどうして知りますかの項では結論として大てい知つている五九、三%、よくわからない二六、四%、あまり関心がない八、一%、白紙六、一%となつている。

優勝戦が午後三時半から宮山グラウンドで行われた。昨年の優勝チーム紅葉ガ丘分会はさすがに攻守ともに一日の長がはつきりみられ対戦した平原分会を九対二と堂々の優勝戦をすすめて打破つた。

優勝紅葉ガ丘分会、二位平原分会三位柳川ハヤ馬南分会の各チーム

不満は大てい解決

世論調査にみた種々相

三作支部ではさきに世論調査をアンケート方式で行つたが（五人に一人の割）このほどこれを集約した。

調査項目は十項目にのぼり、各項にそれぞれ十種類ばかりの事例を引くという細かい調査が行われたが、こんどはこの集約のもとに各種活動の資料に供せられるものと思われ、期待がかけられている。

ではこの調査のなかから三作支部の人たちはどう考え、なにを望んでいるだろうかと二、三拔すいしてみました。

不満残るは一割

まず「職場で職制や同僚との間に不満や困つたことが起きた時の解決」としては結論的にみれば、大ていうまく解決できる（七二%）できなくて不満が残る（一一、一%）白紙（一、六%）となつている。これを職制との場合をのぞけば委員に申出るが圧倒的に多く全体の六割半、つぎが友人と相談するが一割となつている。

職場会議で討議のとき貴方はどうして態度を決定するかの項をみる

多数の意見に従う

拾つた財布

夕飯の支度をしていると、小学二年になる長男が一大事というように〝かあちやん〟といつて玄関をとびこんできた。私は妹の方がけがでもしたのかとびつくりして手をふきふき出てみた。すると赤いきんちやくをぶらぶらさせて立つている。「今ひろつぱでひろつたよ、中には一杯金が入つとるけん、すぐ警察にとどけてくるね」と云つて、私が「ええ」というとまたとんで行つた。

中には百八十円程入つていた。もし自分だつたらどうしたろうと思うと恥かしいような気がした。

私の家では子供には現金をあたえないことにしている。買物に行くときなど二日に一度ほど果物やらあめ等を買つてあたえているので、よその奥さんたちが「五円五円でとてもいるですよ」とこぼされることをきくが、その点は全然云わない。でも子供のことだから人の物がほしかつたりして、いじけた気持ちになるのではないかと、その点を心配していた。子供の後姿をみながら、きれいな気持ちで、どんな風波にあつてもひくともしない明るい強い子に成長してくれるよう祈りつつ見送つた。

（七夕　松尾スエノ）

ここにも狭き門

鉱業学校にも九七九名

神武以来の景気とさわがれ未曾有の好況が伝えられているが、依然として就職、入学の道は狭き門であり、一向に広まらない。

鉱業学校も受付を終り去る十七日（日）第一次選考を実施（学科）二十一日第一次合格者が発表された。

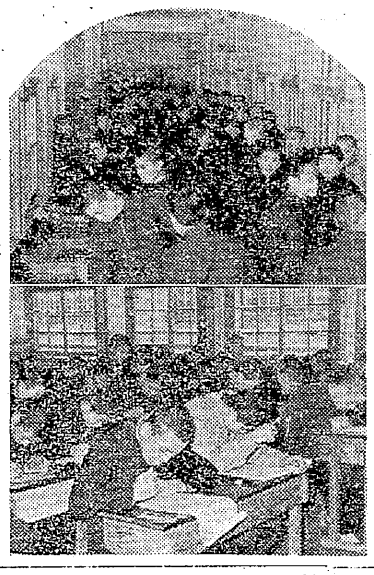
今年は入学志願者九百七十九名（内不参加、遅場二十五）という物すごい志願者が殺到している。出身学校別にみると一番多いのが荒尾三中から百四十五名、米生中学百十八名、勝立中百十名となつており、六十三の中学から受験者が集つている。

第一次合格者は二百五十名、約四分の一が残つたわけだが、第二次（身体検査、体力テスト）が二十二、三日、第三次（面接）が二十七、八日にさらに行われて、この結果百五十名が晴れて喜びの入学をすることになつている。

とくに今回の第一次学科試験を通じていわれることは、受験者がものすごく多いのにくらべて、学力の方は予想外に成績がよく、総平均五一・六四（受験者総数）という驚くほどの成績が記されており試験問題も例年に比して難量を落しているということはなく、逆に上げているのに対してこの成績だから、受験者たちが入学難を覚悟して小さい頭を痛めて勉強した後がよくうかがわれる。

この前行われた潜沖竪坑の採用試験でも沢山の希望者がおしかけているし、こういう例を幾回となくみるたびに、一日も早く安定職場を自分たちの手でつくりあげて、この子弟たちが安心して働ける職場ができるように頑張らなければならないと痛感させられた。

試験場にはイガグリ頭で無邪気な中学生たちが一心に鉛筆を走らせており、頭をいためて考えこんでいるものもあり、なかには親の心子知らずでか無の方をながめていた生徒もみられた。



決起大会開く

大牟田、荒尾両市で

総評では三月十日前後を闘争のヤマとしているが大牟田、荒尾両地区では各単産の春闘への盛上りがみられる三月初旬に地評総決起大会を予定していたが、来る三日（日）開催することになつた。

大牟田地区では午前十時より笹林公園で開催、賃上げ要求闘争、労働時間短縮など十四項目の大会スローガンを掲げて意見発表、大会宣言文、決議文の採択などを行う荒尾地区では午前十時から原万田広場で開始。最低賃金八千円確立と最低賃金法を即時制定せよなど三つの中心スローガンに十項目のサブスローガンを掲げて行なわれこのあとデモ行進に移つて気勢を上げることになつている。

いよいよ本格的闘争突入とともに会社も闘争のほこ先をにぶらせようとあらゆる機会をねらつているが、みんなの心をガツチリとかためる春へ家族ぐるみ当るためにも当日の大会には一人残らず参加しよう。

次第に向上へ

三川で写真展開く

三川では二月十八日から三日間、三川鉱講堂で写真展を催した。今回の展示品百三十二点でキヤビネ版から四ツ切の二種類、これは前回写真部で行つた撮影会の作品が対照になつたもので、審査には町田定明氏が当つている。

三川写真部の写真展も回を重ねるごとに向上しており、今回のも以前からみると着眼点も仕上げ面でも著しい向上が見られており、こんどもこの写真展は継続して行う予定であるという。

またこの写真部では二十四日（日）臥竜梅で名高い三池山普光寺で撮影会を行つた。こんども撮影会は行われる予定だが、初心者の参加が期待されている。

サークル研究会

四山俳句サークルでは三月二日（日）午後一時から四山友愛クラブで研究会を開く。

作品の提出は雑詠五句（出席と同時に投句）、研究のテーマとして1定型の枠内でどのような仕事をするか。

2季題の文学的な受取り方

が予定されており、当日は茶菓子代その他として会費を二十円持参することになつているが、一般の人たちでも気軽に参加されることを主催者側ではのぞんでいる。

決起大会開く

大牟田、荒尾両市で

総評では三月十日前後を闘争のヤマとしているが大牟田、荒尾両地区では各単産の春闘への盛上りがみられる三月初旬に地評総決起大